



導入した全自動型パネルリサイクルライン

平林金属

新たな出口を模索

金属スクラップを中核とした資源の用途開発に心を事業展開する平林金属(岡山市、平林実社長、☎086・246・0011)は、太陽光パネルリサイクルの一方、再生資源としての用途が限定的で、経済的なリサイクルが難しい。そこで、ガラスリサイクルラインを導入しての処理技術の研究を進めるのはもちろん、素材メーカーとの連携も含めた検証を進めている。

用途開発を推進、今後のパネル大量廃棄時代に備えた、適正なリサイクルスキームの構築に取り組んでいる。

使用済み太陽光パネルは2040年ごろ、年間4000万枚の大量排出が予測されている。岡山県は太陽光による発電量が全国第3位となるほど発電施設が多い地域特性があり、地域の総合リサイクル企業として、将来の排出と適正処理に対する備えが必要との考えから、プロジェクトを開始したという。

導入したラインは、エヌ・ピー・シーが開発したJ-BOX分離装置、アルミフレーム分離装置、ホットナイフ式パネル解体装置で構成。1枚当たり60秒という高速処理が可能だ。プロジェクトでは、新ラインによる処理の検証はもちろん、回収

同次長は「取り組みの開始以来、平均週1回の見学者を迎えており、関心が高いことを実感している。個別法制度の検討も進み中で、太陽光パネルが使用を終えたあとも環境や持続可能性に良いものであつたという、より良い再資源化の手段を検討して「きたら」と話した。